

科目名	高齢者に対する支援と介護保険制度 I						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	中畔政憲		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	介護老人保健施設において介護福祉士として勤務		
対象学科・学年	社会福祉科 1年生						
授業概要	核家族化に伴い、身近な存在として高齢者と接する機会が激減している。そこで社会福祉の単位実習に備え、高齢者特有の疾病や特長を学び、疑似体験などを通じて高齢者の心理を理解する。認知症や老化のために身体や頭の働きが鈍くなった場合の心理状態や介護方法等を知る。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					高齢者福祉の基礎知識を学び、理解を深めることができる。	
		○		○		動画や疑似体験を通して、高齢者の身体状況や心理状況について説明することができる。	
		○				高齢者福祉サービス(介護保険サービス)の概要を説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション～老化とは・・・					
	2	平均寿命、高齢化社会について					
	3	人生設計について考える～ライフプラン作成					
	4	記憶について ① ～ 記憶の仕組みについて					
	5	記憶について ② ～ 感覚記憶・短期記憶・長期記憶について					
	6	高齢者疑似体験 (演習)					
	7	高齢者疑似体験 (演習)					
	8	若年性認知症について ① DVD『明日の記憶』鑑賞					
	9	若年性認知症について ② DVD『明日の記憶』鑑賞					
	10	認知症について ～ 3つの種類を理解する					
	11	認知症について ～ 中核症状と周辺症状(BPSD)					
	12	高齢者施設の種類と概要について理解する ～ 介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)とは					
	13	ユニットケアについて (映像視聴)					
	14	高齢者施設の種類と概要について理解する ～ デイサービス(通所介護)とは					
15	まとめ						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)授業に出席するのではなく、「参加」し、積極的な姿勢についてを評価する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	発表・授業参加度				◎		20%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	社会的養護 I						
科目名(英)	Introduction to Child Care						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	中山 八保子		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	児童養護施設において保育士として勤務		
対象学科・学年	社会福祉科1年						
授業概要	今日、児童と家庭を取り巻く生活環境の変化により、児童を家庭で養育することが困難なケースが増加している。『子どもの最善の利益』を追求するためには、家庭養護、施設養護を含めた社会的養護の基本的理解、社会的支援を受けながら生活している子どもとその家族にに関わる際の姿勢、援助が必要になってくる。3年次での児童福祉施設実習に向け、1年次の時点から児童福祉に興味を持ち、感じる力、考える力を身につけ、保育士としての役割、仕事内容を理解していく。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:		
					※ 主たる方法:	○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					社会的養護の基本理念を2つ挙げ、説明することができる。	
	○					家庭養護、施設養護について、説明することができる。	
		○				社会的養護を必要とする児童の気持ちを理解することができる。	
		○				児童福祉施設における保育士の役割を述べるすることができる。	
テキスト・教材 参考図書	・中央法規出版 社会的養護 I						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	自己紹介、科目ガイダンス(社会的養護とは何か)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	2	子育てについて(発達、社会状況)、子どもの権利				「こどもの日」にちなんだ新聞記事を読んでおく	
	3	「母の日」について				自分が生まれた時の様子を親に聞いてみる	
	4	現代社会に暮らす子どもと家庭①(少子化、核家族化、地域とのつながり)				少子化、家族の形態に関する記事を事前に読んでおくこと	
	5	現代社会に暮らす子どもと家庭②(教育、遊び、食の変化)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	子どもに起こる諸問題(社会的、学校、家庭内での問題)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	児童虐待①(現状、定義)				児童虐待に関する記事を事前に読んでおくこと	
	8	児童虐待②(児童虐待に関する法律、保育士の役割)				児童虐待に関する記事を事前に読んでおくこと	
	9	社会的養護の体系(家庭養護、施設養護)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	家庭養護(ファミリーホーム)、特別養子縁組について				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	里親制度について①(里親制度のしくみ、里親の種類)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	里親制度について②(里親の気持ち、里子の気持ち)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	施設の形態				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	14	児童養護施設について①(施設における日常生活について)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	15	児童養護施設について②(保育士の役割について)、まとめ				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 正試験を行うので、復習しておくこと	
評価方法	(1)出席状況 (2)授業参加状況 (3)ノート提出 (4)定期試験(筆記) 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準はS(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○					70%
	ノート提出	○	○				10%
	授業参加状況				○		10%
	出席状況					○	10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	コミュニケーション演習						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	矢野隆子		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	社会福祉科1年						
授業概要	対人援助職者はコミュニケーションの基本的な知識を踏まえ、その応用に習熟してコミュニケーションを発揮し、実践効果が期待できるようになることが望まれる。この授業ではワークやコミュニケーション場面を体験することで自己理解と気づきを深め、適切な対人行動を実践できることを目指す。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					互いの意志を伝え合う方法を学び、コミュニケーションの概念を説明することができる。	
		○				仕事の基本、報告、連絡、相談などのコミュニケーションの重要性を説明することができる。	
		○				聴く、話す、伝えるなどのスキルを身につけ、応用することができる。	
		○				上手な頼み方、断り方等の効果的コミュニケーションスキルを3つ以上説明することができる	
			○			周囲と協力しながら、肯定的で円滑なコミュニケーションを実践することができる。	
テキスト・教材 参考図書	金子書房 星野欣生 人間関係づくりトレーニング ・ 産業カウンセラー協会 ・ みつわ出版 滋慶教育科学研究所 コミュニケーションスキルアップ検定						
授業計画	授業項目・内容			授業外学修指示			
	1	科目ガイダンス・構成的グループエンカウンター					
	2	コミュニケーションの基本 一方通行・双方通行のコミュニケーション			資料の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	人間関係 人が人を理解すること 人間関係のトラブルを処理する時の基本					
	4	アサーションー相互尊重の自己表現			資料の該当範囲を読んでおくこと		
	5	アサーションー上手な頼み方、断り方			資料の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	仕事の基本「報告・連絡・相談」					
	7	互いに納得する「交渉」の仕方の仕方			資料の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	交渉に困らない「説得」の基本					
	9	プレゼンテーションー上手な伝え方					
	10	仕事の上で必要とされる表現技術ー話す方法を分かりやすくまとめる方法			資料の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	11	トラブルー葛藤とのつき合い方					
	12	アンガーマネジメントートラブルのもととなる感情の対処					
	13	コンセンサス					
	14	ストロークーふれ合うことの大切さ					
15	交流分析ー人生態度						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)授業への参加態度(ワークシート・振り返りシート提出) 成績評価基準はS(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品						
	ワークシート・ふり返し用紙				◎		10%
グループワーク				◎		10%	
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	レクリエーション II						
科目名(英)	recreation						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	添田譲二		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	社会福祉科 1年						
授業概要	現代社会の中で、余暇やレクリエーションのもつ意味も、単なる気晴らしではなく充実した人生づくりの基盤の一つへと変化してきている。レクリエーションは、福祉社会の中での役割として生活の自立を促し人生の充実を図ると同時に協調性や思いやりなど人間形成にも影響力をもっていると考えている。このような中でレクリエーションがもつプラスの価値をどのような支援体制で展開すればよいかを解説する。そこで、遊びを体験しながら遊びの必要性や支援方法を理解することを目標に授業を展開していく。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他		
	○						
		○		○			
		○		○			
目標	レクリエーションの必要性を理解して説明できるようになる						
目標	レクリエーションの多くの素材を覚えて支援することができる						
目標	コミュニケーションの手段の一つとしてレクリエーションの素材を使い分けることができる						
テキスト・教材 参考図書	楽しい遊びの商店街 プリント資料【配付資料】						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	レクリエーション支援について(理論)					
	2	レクリエーションの素材の体験(ゲーム)					
	3	レクリエーションの素材のアレンジ方法(ゲーム遊び)					
	4	信頼関係づくり・ホスピタリティ(理論)					
	5	レクリエーションの素材体験(創作活動)					
	6	グループワーク・トレーニング①(素材別遊び創作)					
	7	グループワーク・トレーニング②(素材別遊び創作)					
	8	グループワーク・トレーニング③(素材別遊び創作)					
	9	楽しむための目標設定について(理論)					
	10	コミュニケーションについて体験活動(説得・納得)					
	11	レクリエーションの素材の体験(折り紙の世界)					
	12	レクリエーションの素材の体験(伝承あそび①)					
	13	レクリエーションの素材の体験(伝承あそび②)					
	14	レクリエーションの素材体験(思い出づくりのレクリエーション)					
	15	レクリエーション II のまとめ(理論)					
評価方法	授業中の課題に対して個人として取り組む。 グループを単位として、レクリエーション支援の企画をする。 授業の中で学んだレクリエーション情報をアレンジして、演習を通して提供する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験						
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品						
	実技演習	○	○		◎		50%
	授業中の課題(個人)				○		30%
授業中の課題(グループ)	○	◎		○		20%	
履修上の注意	心にゆとりをもち、さわやかな笑顔で受講すること。 授業内容を楽しむ気持ちをもって受講すること。 目を輝かせ動作はハツラツとすること。						

科目名	英会話 I						
科目名(英)	English Conversation I						
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	脇野真帆		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	社会福祉科1年生						
授業概要	わが国のグローバル化が進む中、日常英会話は社会人としての常識になりつつある。医療福祉の現場にも外国人が入るようになり、ベーシックな英会話、医療用語などの知識を養っておくことは必須である。中学までの英語を再度復習し、ロールプレイで基礎英会話力をしっかり習得する。						
授業形式	講義	○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				中学英語までの文法を再度復習し、主語述語目的語の文を作ることができる。	
	○	○				一般動詞、身近なもの名詞 形容詞を習得し、簡単な会話ができるようになる。	
	○	○				子どもがかかりやすい病名、怪我、状況を英語で説明できるようになる。	
	○			○		英語のあそび歌、絵本の翻訳にも挑戦し、保育実習でも活用できるようにする。	
テキスト・教材 参考図書	金星堂Happy English For Childcare ,Longman Side by Side, Oxford English Time						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	Unit1 人に何かを頼む表現				教科書を読んでおくこと	
	2	Unit2 場所、位置を伝える表現				教科書を事前に読んでおくこと	
	3	Unit3 調子を聞く、形容詞のボキャブラリー				教科書を事前に読んでおくこと	
	4	Unit4 好きなもの嫌いなものを聞く表現 名詞のボキャブラリー				教科書を事前に読んでおくこと	
	5	Unit5-6 There is There areの文 と命令文				昔話の翻訳をします。辞書を持参してください。	
	6	Unit7-8 アレルギーを伝える 大事なことを伝える文				教科書を事前に読んでおくこと	
	7	Unit9-10 状況を伝える 仮定法と過去形				教科書を事前に読んでおくこと	
	8	研究発表				プレゼンテーションの予定です。	
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)宿題・レポートを数回実施する。(2)プレゼンテーションを実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	発表	◎	○				80%
	小テスト	◎	◎				10%
	宿題・レポート	○	◎		◎		10%
履修上の注意							

科目名	英会話SC					
科目名(英)						
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	脇野 真帆	
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目		
対象学科・学年	社会福祉科 1年					
授業概要	英会話 I の授業を通して学んだことを活かしつつ、日本独自の「おもてなしの精神」を備えてのレクリエーションを実施することで、実際に外国人の方々とコミュニケーションを図り楽しんでいただくことができることを目指す。					
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標
				○		グループやクラス内において積極的な協力を実践することができる。
	○					レクリエーションの要素を宮めなからの連立を意識することができる字ひを待てることかできる。
	○					レクリエーションを行う中で「伝える」ということを意識して、、しっかりとコミュニケーションを図ることができる。
テキスト・教材 参考図書	なし					
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示
	1	1日目(2日目に向けての準備、レクリエーションの計画立案、シュミレーション)				
	2	1日目(2日目に向けての準備、レクリエーションの計画立案、シュミレーション)				
	3	1日目(2日目に向けての準備、レクリエーションの計画立案、シュミレーション)				
	4	1日目(2日目に向けての準備、レクリエーションの計画立案、シュミレーション)				準備に対して入念なりハーサルを行う。
	5	2日目(外国人をお招きしてのレクリエーションの実施・コミュニケーション)				
	6	2日目(外国人をお招きしてのレクリエーションの実施・コミュニケーション)				
	7	2日目(外国人をお招きしてのレクリエーションの実施・コミュニケーション)				
	8	2日目(まとめ・振り返り)				
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
15						
評価方法	スクーリングにおける参加状況と意欲点として評価する 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他
	グループ内での協働・参加状況				◎	
	レポート作成		○			
履修上の注意	遅刻・欠席は認められない(該当する場合は再履修となる)。					

科目名	音楽表現 I -②						
科目名(英)							
単位数	3単位	時間数	48時間	担当者	亀谷 菜		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	社会福祉科 1年生						
授業概要	①ピアノに親しみ、2年次までの2年間で表現力、テクニックを磨き、修了コンサートの成功を目指して努力する。 ②音楽の基本的な理解と音楽活動での様々な楽器の習得を目指します。 ③歌唱や合唱を通して社会人としての基礎力(表現力、チームワーク、理解力、向上心)を磨きます。						
授業形式	講義:	演習:	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	歌唱表現	ピアノ表現	演奏技術	音楽的理解度	自己実行力		
	○						
		○					
			○				
				○			
目標	歌の歌詞を理解し、相手に伝わるように表情豊かに歌うことができる。						
	楽譜に書かれている音を自分のものにし、表現することができる。						
	自主練習によってテクニックを磨き、技術を習得することができる。						
	音楽の基礎となる楽典を理解し、楽譜を正確に読むことができる。						
	他者からの助言がなくても自分で理解し、練習することができる。						
テキスト・教材 参考図書	近畿大学短期大学声楽教本、ピアノ教本・みんなのコース						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	夏休み課題曲お披露目、歌唱(このみち)合唱(ピリーヴ)			課題曲お披露目に向け、各自練習しておくこと。		
	2	ピアノ教本No16ト長調(新しい調に慣れる)、歌唱(手のひらを太陽に、われはうみのこ)合唱(ピリーヴ) ※東住吉保育園スクーリング練習			ト長調の復習をしておくこと		
	3	ピアノ教本バイエル76(右手ポジション移動の練習)、歌唱(大きな栗の木の下で、虫の声)、合唱(ちっほけな勇氣)			授業内容を理解、練習しておくこと		
	4	ピアノ教本バイエル76(左右の違うリズムに慣れる)、歌唱(キノコ、赤とんぼ)、合唱(ちっほけな勇氣)			授業内容を理解、練習しておくこと		
	5	ピアノ教本バイエル76(曲想をつけて演奏)、歌唱(まつぼっくり、にじのむこうに)、合唱(ちっほけな勇氣)			授業内容を理解、練習しておくこと		
	6	ピアノ教本バイエル72(三拍子、リズムに慣れる)、歌唱(こおろぎ、夕焼け小焼け)、合唱(ちっほけな勇氣)			バイエル72の復習をしておくこと		
	7	ピアノ教本バイエル72(指番号に注意して両手で練習)、歌唱(つき、ドロップスの歌)、合唱(ちっほけな勇氣)			授業内容を理解、練習しておくこと		
	8	ピアノ教本バイエル72(メロディーと伴奏の違い)、歌唱(おなかのへるうた、こぎつね)、合唱(ちっほけな勇氣)			授業内容を理解、練習しておくこと		
	9	ピアノ教本バイエル77(三拍子に慣れる)、歌唱(たきび、サッチャン)、合唱(ちっほけな勇氣)			バイエル77の復習をしておくこと		
	10	ピアノ教本バイエル77(A,B,Aの形式理解)、歌唱(やさいもゲーチーパー、おもちゃのマーチ)、合唱(ちっほけな勇氣)			授業内容を理解、練習しておくこと		
	11	ピアノ教本バイエル77(臨時記号ファ、ドに#ニ長調で使う黒鍵に慣れる)、歌唱(森のくまさん、ななつのこ)、合唱(ちっほけな勇氣)			授業内容を理解、練習しておくこと		
	12	ピアノ教本バイエル77(フレーズを意識して)、歌唱(まっかな秋、故郷の空)、合唱(ちっほけな勇氣)			授業内容を理解、練習しておくこと		
	13	ピアノ教本バイエル77(曲想を付け、テンポ感をもって演奏)、歌唱(いもほりの歌、やまびこごっこ)、合唱(ちっほけな勇氣)			授業内容を理解、練習しておくこと		
	14	ピアノ教本:へ長調(新しい調に慣れる)、歌唱(かもつ列車、冬げしき)、合唱(ちっほけな勇氣、ピリーヴ) ※スクーリング分担当			小テストに向け練習、復習しておくこと		
	15	ピアノ教本:メリーさんのひつじ(へ長調での演奏)、歌唱(ペイチカ)、合唱(ちっほけな勇氣、ピリーヴ) ※スクーリング練習開始			小テストに向け練習、復習しておくこと		
	16	ピアノ教本:メリーさんのひつじ(歌い弾きのチャレンジ)、歌唱(夕焼け小焼け、どんぐりころころ)、合唱(ちっほけな勇氣、ピリーヴ)			ト、へ長調小テスト実施		
	17	ピアノ教本:ニ長調(新しい調に慣れる)、歌唱(スキー、ホホホ)、合唱(ピリーヴ、ちっほけな勇氣)			ニ長調の内容を復習し、練習しておくこと		
	18	ピアノ教本:バイエル75(三拍子のリズムの慣れる)、歌唱(うちゅうせんの歌、雪)、合唱(ピリーヴ、ちっほけな勇氣)			試験に向け練習、復習しておくこと		
	19	ピアノ教本バイエル75(右手ポジション移動の練習)、歌唱(赤鼻のトナカイ、カレンダーマーチ)、合唱(ピリーヴ、ちっほけな勇氣)			試験に向け練習、復習しておくこと		
	20	ピアノ教本:バイエル75(両手練習)、歌唱(あわてんぼうのサンタクロース、ジングルベル)、合唱(ピリーヴ、ちっほけな勇氣)			試験に向け練習、復習しておくこと		
	21	ピアノ教本バイエル75(テンポを意識して演奏)、歌唱(お正月、豆まき)、合唱(ピリーヴ、ちっほけな勇氣)			試験に向け練習、復習しておくこと		
	22	ピアノ教本バイエル75(曲想をつけて演奏)、歌唱(うれしいひな祭り、春よこい)、合唱(ピリーヴ、ちっほけな勇氣)			試験に向け練習、復習しておくこと		
	23	試験リハーサル、合唱(ピリーヴ、ちっほけな勇氣)			試験に向け練習、復習しておくこと		
24	試験実施 ピアノ:バイエル75 歌唱:この道、赤とんぼ						
評価方法	①授業ないで小テストを1回実施する。 ②定期試験を実施する(ピアノ、歌唱) 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		歌唱表現	ピアノ表現	音楽的理解度	演奏表現	自主実行力	評価割合
	定期試験(ピアノ、歌唱)	◎	◎	○	○		80%
	小テスト						10%
	授業態度					◎	10%
履修上の注意	出席が17回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	教育原理						
科目名(英)	principle of education						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	川原 ゆり		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	社会福祉科1年生						
授業概要	社会福祉科では保育所の保育士ではなく、「施設保育士」を養成することを目標としている。この科目は「保育士」資格を取得するための近大科目で、「保育」とは教育と養護を併せ持つ概念であり、「保育士」を取得するということは「教育者」であるという視点が必要である。また人間が学校へ行き、勉強するのは社会性と共に思考力を身につけるためであり、社会福祉の「人財」として求められる「問題解決能力」を培うためには学習して行き続けることが重要であることを理解できるようにする。さらに、教育者になるために自分自身がどのように自分を見つめ、自分を成長に導けば良いかを考えるきっかけとする。併せて、この科目は近畿大学通信教育のレポート科目であるため、レポートを作成する中で論理的思考を養う。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○			△		保育とは何かを理解し、レポートとして文章にすることができる。	
	○			△		学校教育において勉強をする意味は何かを理解し、レポートとして又早にすることができる。	
	○			△		保育士となるためには知識や技術だけでなく、人間性を豊かにすることが大切であると理解する。	
	○			△		法律や制度、歴史等を理解し、自分の知識を広げることができ、考察力が向上する。	
○			△		現代の子どもたちの置かれた状況に関心を持ち、自ら調べ、説明することができる。		
テキスト・教材 参考図書	近大教科書『保育のための教育原理』垂水直樹・金俊華・大間敏行・三木一司著 ミネルヴァ書房						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	「教育」とは？教育を学ぶ意義～イントロダクション					
	2	「教育」と「保育」の関係について～レポート1冊目説明			レポート作成		
	3	レポート1冊目作成			レポート作成		
	4	学校教育はなぜ必要なのか～レポート2冊目の説明			レポート作成		
	5	レポート2冊目作成			レポート作成		
	6	現代社会の子育て・子どもの実態(調べ学習～科目試験対策)			調べ学習→発表の準備		
	7	現代社会の子育て・子どもの実態(調べ学習～科目試験対策)			調べ学習→発表の準備		
	8	現代社会の子育て・子どもの実態(調べ学習～科目試験対策)			調べ学習→発表の準備		
	9	現代社会の子育て・子どもの実態(調べ学習～科目試験対策)			調べ学習→発表の準備		
	10	現代社会の子育て・子どもの実態(グループ発表)+補足の授業①			発表		
	11	現代社会の子育て・子どもの実態(グループ発表)+補足の授業②			発表		
	12	現代社会の子育て・子どもの実態(グループ発表)+補足の授業③			発表		
	13	現代社会の子育て・子どもの実態(グループ発表)+補足の授業④			発表		
	14	現代社会の子育て・子どもの実態(グループ発表)+補足の授業⑤			発表		
15	まとめ						
評価方法	(1)授業の出席状況。 (2)レポートと調べ学習への取り組み状況と理解度。 (3)科目試験の対象となるため定期試験は行わない。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	レポート作成	◎	◎		◎		40%
	調べ学習	◎	◎		◎		40%
	意見発表・グループワーク	○	◎		◎		10%
出席状況				◎		10%	
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、評価の対象としない。レポート2冊を提出しなければ科目試験を受験できない。						

科目名	健康科学						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	川端 いづみ		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	社会福祉科1年						
授業概要	・WHOの健康の定義を理解し、現代社会の健康阻害要因について考える						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○		○			自分の体を知る	
			○			体のゆがみ・味覚障害・ドライアイ	
	○		○			栄養の過剰と隔たり	
テキスト・教材 参考図書	生涯スポーツ・健康科学						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	健康の概念(WHOの定義)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	現代社会の健康阻害要因			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	運動不足の実態			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	体力の構成要素			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	運動の種類・自覚的運動強度			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	アルコールパッチテスト			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	歯磨き指導			歯磨きセットを持参すること		
	8	自分の体を知る			タオル、靴下を持参すること		
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(60点未満)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験						
	小テスト			◎		○	10%
	宿題・レポート						
	発表・作品					○	10%
	レポート・科目試験	◎	◎		◎		80%
履修上の注意	レポートが未提出の場合は科目試験の受験資格を与えない						

科目名	現代社会と福祉Ⅱ(社会福祉)						
科目名(英)	current social and welfare Ⅱ						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	山下 琢也		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	社会福祉科・1年生						
授業概要	社会福祉の歴史について把握し、現在の法制等の仕組みに至るまでの経緯を踏まえ、「社会福祉」の基礎について理解し、その内容を論述することができる。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					福祉の基本的な考え方について理解することができる。	
		○				我が国における福祉の発展について理解することができる。	
		○				高齢者福祉施策の基礎・概要について理解することができる。	
		○				障害者福祉施策の基礎・概要について理解することができる。	
			○			自身の身近な身の周りの課題として捉え、真摯に向き合うことができる。	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	ストレンクスとエンパワーメント				関連する内容について読み、授業の内容を復習する	
	2	バリアフリーとユニバーサルデザイン				関連する内容について読み、授業の内容を復習する	
	3	福祉とは				関連する内容について読み、授業の内容を復習する	
	4	ノーマライゼーション				関連する内容について読み、授業の内容を復習する	
	5	社会福祉士について				関連する内容について読み、授業の内容を復習する	
	6	先人たちの功績				関連する内容について読み、授業の内容を復習する	
	7	我が国の福祉の発展①				関連する内容について読み、授業の内容を復習する	
	8	我が国の福祉の発展②				関連する内容について読み、授業の内容を復習する	
	9	介護保険制度について①				関連する内容について読み、授業の内容を復習する	
	10	介護保険制度について②				関連する内容について読み、授業の内容を復習する	
	11	障害者総合支援法について①				関連する内容について読み、授業の内容を復習する	
	12	障害者総合支援法について②				関連する内容について読み、授業の内容を復習する	
	13	社会福祉基礎構造改革について①				関連する内容について読み、授業の内容を復習する	
	14	社会福祉基礎構造改革について②				関連する内容について読み、授業の内容を復習する	
15	社会福祉基礎構造改革について③				関連する内容について読み、授業の内容を復習する		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)授業に出席するのではなく、「参加」し、積極的な姿勢についてを評価する。成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	発表・授業参加度				◎		20%
履修上の注意	毎回の授業でパソコン(パワーポイント)を使用します。可能であれば様々な動画を通じて考える機会を設けたいと思いますので、動画放映の準備をお願いします。出席が2/3に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えません。						

科目名	児童と音楽表現SC						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	西頭輝子・亀谷菜		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	社会福祉科 1年						
授業概要	①ピアノ・音楽に親しみ、これまで培った表現力を活かして、お披露目の成功を目指して努力する。 ②歌唱や合唱を通して社会人としての基礎力(表現力、チームワーク、理解力、向上心)を磨く。 ③ピアノ・合唱・合奏を習得する課程を通して、音楽を通しての児童への関わる方法を学ぶことができる。						
授業形式	講義:	演習:	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					歌唱表現: 歌の歌詞を理解し、相手に伝わるよう表情豊かに歌うことができる。	
					○	自主実行力: 他者からの助言がなくても自分で解説し、練習することができる。	
				○		楽典理解: 音楽の基礎となる楽典を理解し、楽譜を正確に読むことができる。	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	1日目(授業中より取り組んでいる課題曲の合唱・合奏の練習)			授業時に練習した楽曲のリハーサルをしておく		
	2	1日目(授業中より取り組んでいる課題曲の合唱・合奏の練習)			授業時に練習した楽曲のリハーサルをしておく		
	3	1日目(授業中より取り組んでいる課題曲の合唱・合奏の練習)			授業時に練習した楽曲のリハーサルをしておく		
	4	1日目(授業中より取り組んでいる課題曲の合唱・合奏の練習)			授業時に練習した楽曲のリハーサルをしておく		
	5	2日目(授業中より取り組んでいる課題曲の合唱・合奏の練習)			授業時に練習した楽曲のリハーサルをしておく		
	6	2日目(練習した内容をホールにてお披露目)					
	7	2日目(練習した内容をホールにてお披露目)					
	8	総合しての振り返り					
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	スクーリングにおける参加状況と意欲点として評価する 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	実技(歌唱・楽器演奏)	◎					80%
	参加状況				◎		20%
履修上の注意	①遅刻・欠席は認められない(該当する場合は再履修となる)。						

科目名	児童の心理学						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	眞崎 明日香		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	社会福祉科 1年						
授業概要	保育実践に関わる発達理論等の心理学知識と実技を融合し、実技の基礎と表現についての知識と表現方法を学んでいく。発達段階に応じた実践保育、その狙いや役割を理解し習得していくことをめざす。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
				○		与えられた課題に対して自ら考え意欲的に学び、試行錯誤し表現することができる	
	○					日常的な手遊びや童歌を習得し、月齢や場に即した工夫をすることができる。	
	○					子どもの発達段階を理解し、それに即した遊びと環境を用意することができる。	
	○					絵本、紙芝居、手遊びの実践を通して養護と教育の一体型へ応用できる。	
○					保育を指導したり子どもと体験するうえでの留意点やねらいを考え述べるることができる。		
テキスト・教材 参考図書	ナツメ社 わらべうたあそび120						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	授業ガイダンス			授業内で自己紹介をするので、どう伝えるか事前に考えてみる		
	2	絵本の持つ効果と特性を知る			絵本を事前によんでみておく		
	3	子どもの対象年齢に即して絵本を読み聞かせる(目的別)			披露する絵本を持参する		
	4	手遊び・わらべうたの効果と特性を知る			わらべうたについて事前に知っておくこと		
	5	壁面構成の基本とはさみ、のりの指導			はさみとのりの特性、安全な使い方を整理すること		
	6	壁面制作			グループ内で事前に話しておくこと		
	7	壁面制作 仕上げと飾り付け計画			グループ内で事前に話しておくこと		
	8	紙芝居のもつ効果と特性を知る			紙芝居を事前に読んでみておく		
	9	子どもの対象年齢に即して紙芝居を読み聞かせる(目的別)			声色や読み聞かせ方など考えておく		
	10	子どもの対象年齢に即して紙芝居を読み聞かせる(目的別)			声色や読み聞かせ方など考えておく		
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)授業内で制作した作品、指導案、振り返りレポートの提出、(2)発表を通しての表現力 以上を下記の観点・割合で評価する。成績評価基準はS(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験						
	小テスト						
	宿題・レポート		◎		◎		20%
	発表・作品		◎	○	◎		80%
履修上の注意							

科目名	手話Ⅱ(手話検定5級)					
科目名(英)						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	井形 美子	
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目		
対象学科・学年	社会福祉科 1年					
授業概要	手話は音声言語のほかにも手や指、体などの動きや顔の表情を使ってコミュニケーションをとる視覚言語もあることを2006年、国際連合の総会で障がい者権利条約に「手話は言語である」ことを採択され、2014年2月に障がい者権利条約は我が国において効力を発生した。手話言語条例が成立・制定した自治体がある。聴覚障がい者とのコミュニケーション手段として手話技能検定5級取得できる事を目指す。					
授業形式	講義:	△	演習:	○	実習:	
					実技:	
					※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
		○				手話の特徴を選択することができる。
			○			手話表現を選ぶことができる。
テキスト・教材 参考図書	日本能率協会マネジメントセンター 「手話技能検定 公式テキスト 5・6・7級」改訂2版					
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示
	1	手話技能検定について/7級(1) 指文字50音				テキストを事前に読んでおくこと
	2	7級(2) まとめ				テキストを事前に読んでおくこと
	3	手話技能検定6級出題範囲/6級(1) 31手話単語 習得				テキストを事前に読んでおくこと
	4	6級(2) 47手話単語 習得				テキストを事前に読んでおくこと
	5	6級(3) 23手話単語・手話数字 習得/7・6級(1) まとめ				テキストを事前に読んでおくこと
	6	7・6級(2) 模擬テスト				授業内容に係る模擬テストを実施するので、復習しておくこと
	7	7・6級(3) 模擬テスト/手話技能検定5級出題範囲				授業内容に係る模擬テストを実施するので、復習しておくこと
	8	5級(1) 36手話単語・9手話例文 習得				テキストを事前に読んでおくこと
	9	5級(2) 54手話単語・5手話例文 習得				テキストを事前に読んでおくこと
	10	5級(3) 28手話単語・7手話例文 習得				テキストを事前に読んでおくこと
	11	5級(4) 18手話例文 習得/7・6・5級(1) まとめ				テキストを事前に読んでおくこと
	12	7・6・5級(2) 模擬テスト				授業内容に係る模擬テストを実施するので、復習しておくこと
	13	7・6・5級(3) 模擬テスト				授業内容に係る模擬テストを実施するので、復習しておくこと
	14	7・6・5級(4) 模擬テスト				授業内容に係る模擬テストを実施するので、復習しておくこと
15	7・6・5級(5) 総括				テキストを事前に読んでおくこと	
評価方法	(1)授業の中で小テストを9回実施する。(2)授業の中で模擬テストを5回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他
	定期試験					
	小テスト		◎		○	20%
	宿題・レポート					
	発表・作品 模擬テスト		◎		○	80%
履修上の注意						

科目名	人体の構造と機能及び疾病(人体生理学)								
科目名(英)									
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	川端 いづみ				
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目					
対象学科・学年	社会福祉科1年								
授業概要	人体のあらゆる機能を制御する神経・感覚器、内分泌、消化器、呼吸器、循環器、泌尿器、生殖器について理解する								
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標			
	○	○		○		誕生から死にいたるまで			
	○	○		○		人体の大要について知る			
	○	○		○		発育、発達、成長、肥大、老化、萎縮の経過			
	○	○		○		形態、構造、機能の複雑化			
テキスト・教材 参考図書	図説 解剖生理学(東京教学社)								
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示			
	1	人体の構造と機能				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	2	運動器系				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	3	神経系				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	4	感覚器系				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	5	消化器系				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	6	循環器系				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	7	呼吸器系				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	8	泌尿器系				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	9	内分泌系				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	10	生殖器系				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	11	生体リズム				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	12	レポート対策&科目試験対策							
	13	レポート対策&科目試験対策							
	14	レポート対策&科目試験対策							
15	レポート対策&科目試験対策								
評価方法		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	定期試験								
	小テスト				○		5%		
	宿題・レポート								
	発表・作品				○		5%		
	レポート、科目試験	◎	◎		◎		90%		
履修上の注意	レポート未提出の時は、科目試験の受験資格を与えない。								

科目名	相談援助演習Ⅱ						
科目名(英)	Social Work ExercisesⅡ						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	川原ゆり・山下琢也・若狭恵美		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	社会福祉科・1年生						
授業概要	相談援助を学ぶに際して、技術的な内容を駆使することも求められる部分ではある。しかし、当事者の心理・状況を理解することにより、今後の相談援助実習につなげる「人間として」の土台を育むとともに、寄り添った実践を行うことができるようにする。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					自身が体験し感じたことを相手に伝えるように発表することができる。	
					○	ソーシャルワークを実践する上で不可欠な、「自身の考えや思いをわかりやすく相手に伝える」ことを実践することができる。	
		○				高齢者・身体障害者の利用者様の現状と福祉施設の現場の状況を理解するとともに、当事者の意識を実感することができる。	
				○		自身の身近な身の周りの課題として捉え、当事者の置かれている状況と真摯に向き合うことができる。	
				○		相談援助実習に向けての経験を得ることで、自身の進むべき方向性を明確にすることができる。	
テキスト・教材 参考図書	配布プリント						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション・ガイダンス					
	2	高齢者施設体験にむけて					
	3	高齢者施設体験①					
	4	高齢者施設体験②					
	5	高齢者施設体験③					
	6	高齢者施設体験④					
	7	高齢者施設体験 ふりかえり					
	8	障害者施設体験にむけて					
	9	障害者施設体験①					
	10	障害者施設体験②					
	11	障害者施設体験③					
	12	障害者施設体験④					
	13	障害者施設体験 発表準備					
	14	障害者施設体験 発表準備					
15	体験後発表 および まとめ						
評価方法	(1)授業に出席するのではなく、「参加」し、積極的な姿勢についてを評価する。(2)授業の内容にそった提出課題とレポートを課すこととし、その内容と提出状況を評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	発表・授業参加度				○		40%
	提出課題	○					20%
	レポート	○	○				20%
	パワーポイント資料	○					20%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、評価を受ける資格を与えない。						

科目名	造形表現Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	岡山直之		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	社会福祉科・1年生						
授業概要	造形技法の名称と技法の内容を知り、それを使って表現し発表する。作品のテーマを自分で考え、学んだ技法を用いて表現する						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					造形技法の名称とその内容を説明することができる。	
		○	○	○		造形技法と組み合わせて作品を制作することができる。	
	○	○		○		自ら思考して作品のテーマを構築することができる。	
	○			○		制作した作品を他者に説明することができる。	
○	○	○	○		作品制作を通して指導法を身につけることができる。		
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	技法①一点透視法(遠近法)を学ぶ				制作作品をイメージ化しておく	
	2	技法②グラデーション(色の濃淡)を学ぶ				作品のイメージを具現化(スケッチ)する	
	3	上記2つの技法を使って一つの作品を制作し発表する					
	4	紙芝居制作① 今までにないストーリーを考える				おおまかな流れ、起承転結を考えておく	
	5	紙芝居制作② 今まで学んだ技法から3つを選んで制作する				作品のイメージを具体化(スケッチ)しておく	
	6	紙芝居制作③ 全体の構成を考え、技法を選び制作する				制作に用いる素材を用意しておく	
	7	紙芝居制作④ 発表時の演出も考え、制作する				発表の仕方(衣装、音楽、発声等を工夫しておく)	
	8	紙芝居制作⑤ 他者に向けて作品を説明、発表する				発表の仕方(衣装、音楽、発声等を工夫しておく)	
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	①宿題・レポートを数回実施する ②作品を制作しそれを発表する 以上を下記の観点・割合で評価する						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験						
	小テスト						
	宿題・レポート	○			◎		10%
	発表・作品	◎	◎	◎	◎		90%
履修上の注意	欠席が3回以上になる場合、単位は与えない。						

科目名	保育実習指導 I						
科目名(英)	Guidance to Child Care Field Study I						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	中山 八保子		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	社会福祉科 1年生						
授業概要	これまでの保育園一日体験を踏まえ保育園の社会的役割や成り立ちの違いを正しく理解する。特に0、1、2歳児の細かな発達の違いや連続性、以上児への発達のつながりを理解し、実習の中で実践と知識をつなげより理解を深めるための基礎を培っていく。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	◎				保育実習の目的を正しく理解する	
		◎				「保育園の役割」について正しく理解し説明することが出来る	
		◎	◎			保育園訪問にあたっての電話や訪問のマナーを理解し実践できる	
テキスト・教材 参考図書	同文書院版 幼稚園・保育所・児童福祉施設等実習ガイド						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	授業オリエンテーション、実習の目的について					
	2	保育実習の流れについて(見学実習・事前実習・単位実習の意義)					
	3	実習生調査票について、調査票の記入について①					
	4	実習生調査票について、調査票の記入について②				実習施設への電話の掛け方、電話のマナーについて	
	5	実習が可能な施設の種類について・見学実習先のリストアップ				保育園の情報収集を行っておくこと	
	6	見学実習先の最終候補の選定について				前回の授業でのリストアップを踏襲する	
	7	見学実習に向けての必要な知識・技術の習得①					
	8	見学実習に向けての必要な知識・技術の習得②					
	9	見学実習に向けての必要な知識・技術の習得③					
	10	見学実習に向けての必要な知識・技術の習得④					
	11	見学実習に向けての必要な知識・技術の習得⑤					
	12	見学実習に向けての必要な知識・技術の習得⑥					
	13	見学実習に向けての必要な知識・技術の習得⑦					
	14	見学実習に向けての必要な知識・技術の習得⑧					
15	見学実習に向けての最終確認(必要書類)						
評価方法	①授業態度 ②提出物 ③実践への取り組み 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	授業態度	○	◎		◎		50%
	提出物	◎			◎		20%
	取り組み		◎		◎	○	30%
履修上の注意	出席が6回に満たないものに単位の修得は認めない						